



マチグワ－のトイレ問題を考える地域円卓会議

トイレはまちの資産

まちぐわ－のトイレ最適化を考える

実施報告書

日 時： 2016 年 8 月 31 日（水）18:30-21:00

場 所： てんぶすホール（那覇市ぶんかテンプス館）

主 催： なはマチグワ－イベント連携プロジェクトチーム

那覇市経済観光部なはまちなか振興課、那覇商工会議所、那覇市中心商店街連合
会、那覇市沖映通り商店街振興組合、株式会社 O T S サービス経営研究所、有限
会社アンテナ

支援団体： 沖縄県、沖縄県商工会連合会

報告書作成

NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】マチグワーのトイレ問題を考える地域円卓会議



- 日 時：2016年8月31日（水）18:30-21:00
- 場 所：てんぶすホール（那覇市ぶんかテンブス館）
- 着席者数：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 来場者数：46名（企業・行政・NPO・市民）

- 主 催：なはマチグワイイベント
連携プロジェクトチーム
- 協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO法人まちなか研究所わくわく
- お問合せ：NPO法人まちなか研究所わくわく

論点提供

栗國 智光 氏（那覇市中心商店街連合会 副会長）

トイレはまちの資産まちぐわーのトイレ最適化を考える

那覇市の第一牧志公設市場を中心とするマチグワー周辺では、近年立ち飲み屋などの飲食店が増加しています。夜にかけてのにぎわいが生まれつつある一方で、トイレの数が足りないという問題が発生してきています。

数が足りないのか、数はあるがマッチングできていないのか、今あるトイレを活用するためには何が障害となるのか、維持管理の負担を誰が担うべきなのか、など検討すべきことは様々です。

今回の円卓会議では、市民のみなさんや関係者、専門家の方々と一緒に、客観的な現状を共有し、トイレをまちの資産と捉え、トイレの最適化について考えていきます

センターメンバー



栗國 智光
那覇市中心商店
街連合会
副会長



渡嘉敷 洋美
那覇市経済観光
部 なはまちなか
振興課 主幹



柄崎 隆広
ちよい呑み酒場
輪屋 店主



池田 孝之
琉球大学名誉教
授 工学博士



矢野 弘子
那覇市平和通り
商店街振興組合
専務理事



我喜屋 あかね
沖縄タイムス社
記者

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 那覇市の調査でマチグラーに年に 1、2 回もしくは全く行かない人が 6 割以上
- 近年増え始めた立ち飲み屋の人気ので、仕事帰りの地元の方が飲みに来るようになった
- 第一牧志公設市場を中心としたマチグラーには約 13 の通り会があり、600 店舗近くが存在している。また、第一牧志公設市場では 130 店舗が営業している
- マチグラーの以前の業種は市場の食、乾物、お菓子屋さん、雑貨、衣料等
- ここ 2、3 年で飲食店が増加。にぎわい広場周辺、ちとせ商店街周辺に 30 店舗ぐらいある。0.5～1 坪と狭い店舗が多いため、トイレを設置出来ない。もともと衣料関係だった場所に、飲食店ができてきた経緯がある
- 第一牧志公設市場は築 40 年以上。周辺の建物は 50 年以上のものも多い
- 平和通りは建物が古く、昔は 2 階に人が住んでいたの、トイレも 2 階にある。4 階にトイレがある建物もある。また、地下にトイレがある店舗もあり、お客さんに勧めることが難しい
- 平成 15 年頃にはマチグラーのトイレ問題は存在した
- 公衆トイレ（希望ヶ丘公園）は市が設置・管理している。施設トイレは施設管理のそれぞれの主体が管理する。
- 施設トイレは 2 階に設置されたトイレが多い
- 店舗を分割するときに、公設市場のトイレを使えばよいと考え、トイレを撤去した店舗もある
- 店舗 50 坪を 2 つに分けて、トイレを作った。配管の位置関係、売場の確保など投資の負担が大きい
- 公設市場のトイレは施設トイレだが、公衆トイレと勘違いされる。障がい者専用の多目的トイレもあり、使用頻度が高い
- 平成 16 年に、にぎわい広場のトイレ整備を地域の方とワークショップをして決めた。翌年トイレがオープン
- にぎわい広場のトイレは 23 時まで使える。周辺の飲食店以外のお店は 20、21 時には閉まるが、飲食店は 21 時以降も営業を行っている
- 老朽化している建物の浄化槽のポンプが壊れて、臭いがでることがある
- 家主が高齢化し、トイレ設置などの改修等の話の場に出てきてくれないことがある
- 公設市場雑貨部の近くに公衆トイレがあったが、雑貨部と衣料部の建て替えの時に廃止になった
- この 10 年で施設トイレは増えているが、飲食店が増え、21 時以降に使えるトイレが足りなくなってきた
- 公設市場条例に営業時間が 22 時までと決められている。時間を延長することは、防犯や安全面から不安が大きいため、条例を変えにくい
- 観光客が増えてきて、第 4 日曜日が第一牧志公設市場の定休日となると、トイレの受け入れ先がなくなる
- ガープ川中央商店街組合（水上店舗）の家主がもあいでもトイレ 2 か所を皆が使えるように整備。組合員でなくても、協力金を負担することで、トイレを共有している
- 平和通りの公設市場雑貨部のある所に、平成 26 年にマチグラー案内所ゆつくるの多目的トイレが那覇市の委託で始まった
- ゆつくる（H28 は平和通りが管理）のトイレ利用は、5 月 800 名、8 月 1000 名近く。車イス利用者も利用でき、並ぶこともある。授乳室もリピーターが多い、安心して買い物できる
- 那覇市は平成 15 年から「トイレ等提供店舗支援事業」で店舗のトイレ利用を補助するしくみを開始した。現在、トイレ協力店舗が 15 施設。月に大便器に 6000 円、小便器に 4000 円の補助金を出している
- 那覇市でもトイレを作れないか、調査しているが、地主の同意が得られない。土地を買うと約 4000 万円。建物を建てると約 4000 万円、これに管理費が入る。
- 飲食店の保健所営業許可はトイレが無いとキッチンの衛生が保たれると考えるため、現在営業許可にトイレの無設置は影響していない。なはまちなか振興課からトイレの有無も評価するよう要望している
- 飲食店とその他店舗との確執については、夜の騒音や立ち小便などがある
- ちょい呑み酒場 輪屋に関すること
 - ✓ 地元客が 8 割で、仕事帰りの方や通り周辺で飲んでの方が来る。2 割が観光客
 - ✓ 客単価は 2000 円いかないくらい。飲み物 3 杯におつまみ何品かで 1000 円ちょっとくらいになる
 - ✓ 店舗とは別の場所に通りを挟んでトイレを確保しているが、トイレの家賃の方が店舗の倍している
 - ✓ 周辺のトイレを使えるか交渉したが、時間、防犯上の問題で使うことが出来なかった
 - ✓ トイレのある場所までがわかりづらく、案内が必要。トイレの案内をトイレ近くまでする、通りの掃除をする、など受け入れられる努力をしている
 - ✓ 輪屋のトイレは、知っている人はお客でもない人も使っている現状、公衆トイレに近い状況になっている
- 平和通り、アーケードの検討委員会を立ち上げている。家主さん何名か入っている

視点の提供

- トイレは店の顔。店の価値はトイレで決まる
- マチグラーの 2 階を何故使わないのか？空いているスペースがあるのでは？共同でやっては？
- 新しいトイレを作るより、今あるトイレを活用できないか？
- 飲食店をハシゴする人が多いため、公設市場衣料部、雑貨部はトイレのある場所として良い。新しくトイレをつくるのではなく、そのお金を既存のトイレの警備費に使えないか？
- 飲食店組合を作り、夜間の見回りなどで防犯対策をするなどできないか
- 昼間のトイレは観光案内所を増やし、トイレとセットにしていく。夜はガラス張りの公衆トイレ。トイレを表に出していき、まちの資産に！
- マチグラーにコインロッカーがない。てんぶすの観光案内所の預かりサービスを薦めている。大きい荷物を預ける場所がないので、観光客は探している。トイレとくっ付けて、お金生み出す仕組みにする
- 飲食店はトイレを義務化。数店舗で共同トイレを作り、市で補助をする
- 2 階の空きスペースで簡易トイレ、男は小便器が多くあればいい
- マチグラーの方向性が決まっていない。合意形成が難しいので、現状の情報共有を行う。まずは、現状を理解してもらう
- トイレの整備を行うことで、マチグラーの価値が上がるということを発信する
- トイレ等の「設備」、建物やアーケードの「構造物」、仕切りの「デザイン」の三つに分けて考える必要がある。
- 構造物は長年使うためしっかり考え、「所有者」で負担する。仕切りのデザインは「個店、個店」で考える。設備であるトイレは「利用者」でその都度考え、簡単に交換できるようにする
- 誰が所有者か、所有者が出てこない。そうしないと構造物の議論が出来ない
- 花や明かり、落書きを消すなど、明るい雰囲気にするだけでもかわる。青のライトに変えるだけで犯罪率が下がった、あまりお金をかけずに出来る防犯を考えては

事例の提供

- クロアチアは WC のサインが大きくわかりやすい。公衆トイレが綺麗。それ以外は、共同トイレで有料 100 円以下である
- お店で提供されるバーコードの紙でトイレの鍵が開くシステムがある。店の料金に含まれている
- 世田谷の事例、24 時間使え、明るく綺麗なガラス張りの公衆トイレ、人影が見える。地域の人が協力して花を飾る

評価の提供

- 那覇は公衆トイレが非常に少ない
- 栄町のトイレは汚いし、臭い
- 古い店舗のトイレは構造上貸しづらい。貸したいが、古すぎて貸せない
- 障がい者専用トイレ、多目的トイレが少ない
- 希望ヶ丘公園は女性としては使いづらい
- 協力店舗がわかりにくい
- 那覇市としてマチグラーに飲食店が入ることは歓迎すべきこと
- マチの中でハシゴして飲んで歩くスタイルの店が多いので、お店が増えるのは良いこと
- トイレを新設するのに 8 千万円、那覇市としてもこれは高額、投資効果があるかわからない。維持コストも入れるとトータル 1 億円はかかるだろう
- 共同トイレができるとありがたい
- 飲食店同士で、トイレの管理協力はできると思う。ただ、利用の頻度によって不公平感がある。現時点では那覇市のトイレ提供店舗の補助があるので、共同で管理しようと言っても、抜ける人があると思う。市制度の設計から考える必要がある
- まちの老朽化は問題も生み出す一方、魅力となる風情も生み出している
- 問題は夜のトイレをどうするか。がポイントになる。
- トイレの防犯を考えることは、市場全体の防犯を考えるのと同じでは？

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- トイレはあくまで設備、利害関係者とまちの将来像を見据え合意形成と実証実験を
- トイレは誰もが使用する共有資産、行政も巻き込み、経営感覚でトイレを維持管理
- トイレ管理は、夜間防犯を最優先、ただし他施設との併設や最新技術の活用でコスト低減を

■参加者によるサブセッション

「まちぐわートイレの最適化をどうするか？」（原文のまま）

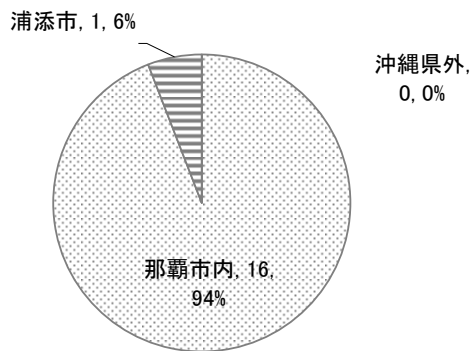
- ① トイレ（上物）だけの問題ではなく、「下水道」の事情も一緒に考えなければ。
 - ・ 現在「下水道のタコ足配線」状態である。
 - ・ しかも、どのような下水道の状態すらわからない
 - ・ 貸主、借主の相互理解（課題共有）が最も必要
- ② トイレの有料化など→受益者負担も考える必要がある。
 - ・ 新たな維持管理の手法を考える。
 - ・ 夜のトイレの使い方のマナーUP。
 - ・ 根本的に数がやはり少ないと思われる。
- ③ 夜：1階の空き店舗の活用
- ④ 飲食店を営業する場合はトイレ設置をする、設置が難しいのであれば、周辺店舗と共同でトイレを設置する。
- ⑤ 既存のトイレを活用（深夜まで）。防犯対策として飲食店組合を作り、管理する。
- ⑥ 下水道はどこまできているのか？各自で作れる？
 - ・ 公園のトイレ増やせないの？
 - ・ そもそも市はどんな都市計画があるの？
- ⑦ 新設ではなく、既存のトイレを活用。・ 条例の適用を売場とトイレを分けて考えられるか？
 - ・ 施設トイレの管理を商店街に委託し、円潤にする。
 - ・ ゆつくるの裏側、パラソル通りにある空場所にトイレ設置。
- ⑧ 公衆トイレを増やせるなら、増やしてほしい。
 - ・ 受益者負担の仕組みを作る。トイレ利用が増えると店がもうかる様な。
- ⑨ パウダールームとして経営するトイレ（グッズ体験、販売も）
- ⑩ 24時間有料化（きれいなトイレ、管理人付き）一ヶ所でもあれば、、、・ 協力店舗を増やす（助成）

マチグワーのトイレ問題を考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

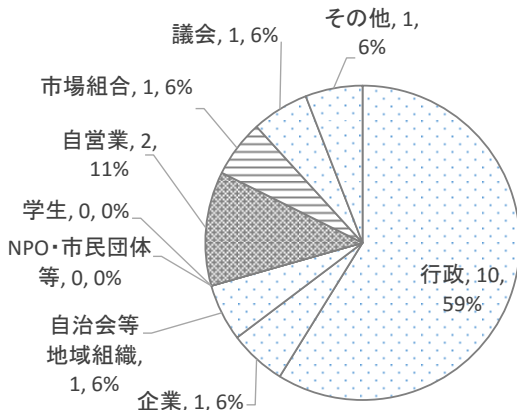
◆概要

- ・ 日 時：2016年8月31日(水) 18:30-21:00
- ・ 場 所：てんぶすホール
- ・ 着席者：7名(司会、記録含む)
- ・ 参加者：46名(アンケート回収17名、回収率37%)

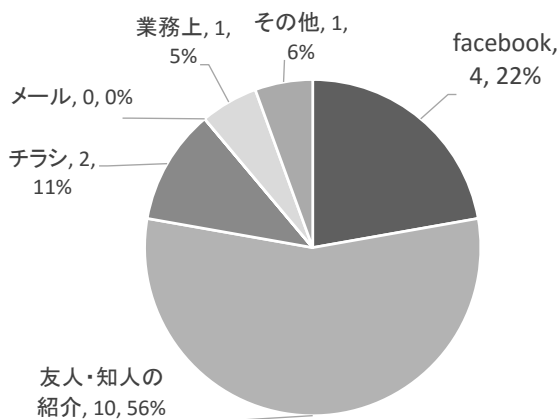
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.2 (5点中)

5. 満足	4. 概ね満足	3. ふつう	2. あまり満足していない	1. 不満足	未記入
5名	7名	7名	3名	0名	1名

5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・ かねてより把握していた課題だけではなく、新たな課題、解決に向けての新たな手法、考え方を聞くことができました
- ・ 長年のトイレ問題の解決に一步前進
- ・ 今直面している議題の話を色々な方向からの意見が聞けて良かったです
- ・ 現状とアイデアがたくさん詰まった内容のある会議だった
- ・ マチグワーにトイレが不足していることが分って大変良かった

(4. 概ね満足)

- ・ 飲み屋さんが増えて問題が表に出てきた所で、解決を目指した議論のスタートが切れたので
- ・ 商店街とトイレについて、これまでの経緯、断片的に聞いていた話を当事者の意見を含め理解できた
- ・ ここ数年で変化する飲食店の増加、マチグワーの活性化(経済)が上向く為の方向性を決めることが必要
- ・ 知らない知識が得られたから
- ・ マチグワーにトイレ問題があることを初めて知りました。
- ・ トイレの必要性があることを知らなかった。(コンビニなどの利用で対応している人が多いと思っていたため。)
- ・ 生の声を聞くことが大切。(問題点、課題が多いことが理解できた)
- ・ 5名のそれぞれの立場からの意見が聞けてたいへん良かったです。これまで、トイレにつ

いては課題と考えていましたが、多くの人と共有できて良かったです。

(3. ふつう)

- ・ 次が気になる円卓でした。
- ・ グループワークでも出た飲食店経営者にはトイレ設置する責任がある。というのは、一番最初に思いつく意見だと思いますが、その回答が得られなかったのは少し残念でした。トイレを設置していない飲食店の方にもいらしていただければ良かったなと思いました。また、タイムスさんの意見である、組合で防犯対策の見回りしてはどうかなどは、実際に可能なかどうか、栗国さんか矢野さんから意見をきいてみたかったです。さまざまな観点から意見がでたので、行政以外のオブザーバーもたくさん来てくれたら良かったなと思います。

6. 印象に残ったこと

- ・ 受益者負担の仕組み作り
- ・ 整備に関する費用対効果の考え方
- ・ トイレ設置義務化の仕組み作り等
- ・ 構造物と設備を分けて考える・営みのスキマ時間
- ・ 那覇市が今回前向きに土地を買うなど検討していた。それより既存の建物を使った方が良いと思う
- ・ 新しい物を作るのも1つ。今ある物でいかに有効利用するかも大切だと思いました！
- ・ 発言者全員の話が良かった。とても冷静かつ同じ方向の話だったので、自分の考えもまとめやすかった
- ・ トイレを散存させるのではなく、2~3ヶ所くらいに少し大きめにつくことで、人が集いちょっとした交流や出会いの場となり、それこそまちの資産になる
- ・ サブセッションの中で（チームで）話題になった、「公衆トイレはまちのインフラとして必要」か？との議論も必要だと思った。私達の中では何らかの形で公共が果たす役割があるとの意見となった
- ・ やはり原因がある飲食店の営業許可に保健所のトイレ設置義務がセットでないと問題は増える
- ・ 市場、店舗、自治での運営でもフリーライダーがでてくるはずであり、最終的に行政頼みにならないか心配。商店街で試行錯誤するしかない。
- ・ トイレをパウダールームとして一事業として取り組む
- ・ パウダールーム（グッズ販売、経営の中で存在させる）
- ・ トイレの義務化（飲食店、市の補助）
- ・ 1000人/月 トイレの利用者数
- ・ トイレの共同管理（店舗による）
- ・ まちの方向性を見つける
- ・ 昼と夜ではトイレのあり方について違うこと、設置する為にどうすればいいのか、いろんなアイデアが良かった。貸し手の問題（老朽化）など、実態がきけて良かった。
- ・ 事業者への義務化と既存トイレの夜間営業事業者による協同管理

(写真) 会場の様子



マチグワール周辺のトイレ問題について話し合った地域内卓会議＝8月31日、那覇市・てんぶすホール

夜のマチグワール トイレ足りぬ



現在、マチグワール周辺には、通り内に「トイレ提供店舗」

マチグワールのトイレの方向性を探ろうと「なはマチグワールイベント連携プロジェクトチーム」は8月31日、てんぶすホールで地域内卓会議を開催。商店街関係者や市職員、飲食店経営者ら6人が登壇、約60人が現状を共有しながら議論した。

那覇市の第一牧志公設市場を中心としたマチグワールエリアでは、多くの飲食店が進出しにぎわう一方で、夜間のトイレ不足に関する問題が浮上している。住民や事業者から酔った客の立ち小便などへの苦情が寄せられており、夜間になると「トイレ禁止」と書かれた看板が出される通りもあるという。

那覇 関係者議論 共同設置案も

酔客立ち小便 周辺苦情

が13カ所あるほか、希望ヶ丘公園近くの公衆トイレ、公設市場内の施設トイレがある。だが24時間使えるのは公衆トイレだけで、ほとんどが午後10時には閉まる。

パラダイス通りに居酒屋を構える柄崎隆広さんは店舗内にトイレがないため、トイレだけのために別の店舗を借りている。「自分の店より、トイレの方が家賃が高い。道向かいなのでたどり着けない人もいる。近くに大きな共同トイレがあれば」と話す。

琉球大学の池田孝之名誉教授は、街中に一部を隠したガラス張りのトイレを設置し、安心安全に工夫した東京都世田谷区の事例を紹介。沖縄タイムスの我輩屋あかね記者は「市場内の公共トイレを夜間も使えるようにしては」と提案。防犯に関する指摘もあり、各店が協力して安全を確保する意見も出た。

そのほか、「飲食店数店で共同トイレをつくる」「安価で利用できるトイレを設置する」などさまざまな具体案が出された。中心商店街連合会の粟国智光副会長は「マチグワールの価値を高めるためにトイレは必要だが、すぐに新規設置は厳しい。互いに協力し合って既存のトイレを活用しないといけない」と強調した。

仮設トイレの提案も

マチグワの
地域円卓会議 問題解決へアイデア



マチグワのトイレについて話し合う円卓会議着席者と観覧席の市民ら＝8月31日、那覇市のてんぷすホール

マチグワのトイレ問題の商店街関係者や店主、
題を考える地域円卓会議 市役所職員、マスコミ、
（なほマチグワイベン 識者などの代表者と観覧
ト連携プロジェクトチー していた約50人の市民ら
ム主催）が8月31日、那 も一緒に商店街のトイレ
覇市のでんぷすホールで 問題と解決策について話
開かれた。平和通りなど し合った。

円卓に着席した那覇市

中心商店街連合会の粟國
智光副会長が、公設市場
などの商店街で買い物客
らが見えるトイレが少な
いことを論点として提
示。平和通り商店街振興
組合の矢野弘子専務理事
が平和通りの店舗の構造
上トイレの提供が難しい
こと、事業者だけでは負
担が大きい現状を説明し
た。経営する居酒屋とは
別にトイレのみで店舗を
借りている柄崎隆広さん
は「トイレだけで居酒屋
の倍の家賃が発生する」
と共同のトイレの必要性
を指摘した。

一方で、那覇市役所な
はまちなか振興課の渡嘉
敷洋美さんはトイレの新
設には「8千万円近くか
かる」と報告。沖縄タイ
ムスの我喜屋あかねさん
は防犯対策の必要性にも
言及した。工学博士で琉
球大学名誉教授の池田孝

之さんは、海外のような
有料の共同トイレや、平
和通り2階の空き部屋に
仮設トイレを設置するこ
とを提案した。

会場からは、店舗経営
者で夜間のトイレの見回
りをすることや、明るく
することで防犯に努める
こと、有料でトイレや身
支度ができるパウダール
ームを設置し、経営する
ことなどさまざまなアイ
デアが上がった。